

⑧ 数量・図形、標識・文字

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

	子どもの姿	指導する上で大切にしたいこと
<p>年長児の後半 学びの芽生え</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊び(砂場・積木・栽培物の収穫など)を通じて、自分たちに関係の深い数量、長短、高低、広さや速さ、図形に関心をもつ。 必要感をもって数えたり、比べたり、組み合わせたりする。 日常生活の中で文字や数や表示などに関心をもち、書いたり、数えたり、計ったりするなど適当な表現方法を知り、生活や遊びの場面で使ってみる。 文字や数を使って表現できることを知り、手紙などを書いて、相手に伝えることのうれしさを感じ、意欲的に使ってみようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びの中で、数量に親しむ経験を重ねていけるようにし、幼児なりに必要感をもって並べたり、比べたり、量ったりして、数量の感覚を豊かにしていく。 買い物体験の中で、地域の方とやり取りしたり、本物のお金に触れたりして、自分でお金を払う体験ができるようにしていく。 一斉に教えたり、導いたりするのではなく、園生活の中で、自然に文字や数量、筆記具(クレヨン、太マジック、色鉛筆)に触れられるような環境を整え、幼児なりの必要感をもって、伝える喜びや、楽しさ、伝わったという実感を味わえるようにしていく。また、子どもたちの問いには丁寧に対応する。
<p>一年生入学当初 自覚的な学びへ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 幼児期に育まれた数に対する感覚を生かして、ものの数を数えたり、数の大小や数の合成を理解したりする。 文字を使って自分の思いを伝えることができる喜びを感じながら、ひらがなの学習に関心をもって取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児期の遊びや生活の中で、実際に物の数を数える経験や、積み木や空き箱などを組み合わせて、イメージを形づくる経験などから、そこで育まれた数・図形に対する感覚を大事にしながら学習を進めるようにする。 遊びの中で看板や標識を作ったり、友達に手紙を書いたりして思いを伝えた経験を生かし、文字を学ぶことで、さまざまな人に思いを伝えることができるようになるという喜びを味わわせながらひらがな学習ができるようにする。

⑨ 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

	子どもの姿	指導する上で大切にしたいこと
年長児の後半 学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> 相手の意見に耳を傾けたり、自分が言いたいことを理解してもらおうとしたりして、お互いのよさを認め合って遊びを進めていこうとする。 自分なりの言葉で思いや考えを相手に分かるように話したり、人の話を最後まで聞こうとしたりして、その思いや考えに気付くことができる。 絵本や物語などに親しみ、興味をもって見たり、聞いたり、想像したりする楽しさを味わうことを通して、その言葉のもつ意味の面白さを感じたり、想像の世界を友達と共有し言葉による表現を楽しんだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉でうまく表現できない場合には、まず子どもの思いを保育者が受け止め、気持ちや考えを言葉にして返す援助を丁寧に行う。 言葉遊びを楽しむ中で、いろいろな言葉や表現方法を知ったり、関心をもったりできるようにする。また、子どもの好きなお話を繰り返し読んだり、言葉のやりとりを楽しんだりして、表現する活動を取り入れる。 子どもの思いや感じていることを言葉として引き出したりし、言葉で表現したりして伝わるうれしさを感じられるようにする。
一年生入学当初 自覚的な学びへ	<ul style="list-style-type: none"> 教師の読み聞かせを聞き、話の世界に浸る。 友達に対して自己紹介をしたり、友達の自己紹介を楽しく聞いたりする。 友達と互いに思いや考えを言葉で伝え合い、受け止めたり、認め合ったりする。 自分の伝えたい目的や相手の状況などに応じて言葉を選んで伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 登校時の話や休みの日のできごと等、日頃から児童の話す言葉に共感的に耳を傾け、相手と思いを共有することのよさを実感できるようにする。 読み聞かせなど互いにイメージを共有しやすい活動を通して、児童なりの感想を出し合ったり、友達の感想を受けて応えたりする楽しさを味わう。 児童が言葉で伝えたい課題を設定し、相手に自分の思いが伝わった喜びを実感できるような活動を工夫する。

⑩ 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

	子どもの姿	指導する上で大切にしたいこと
<p style="writing-mode: vertical-rl; color: green;">学びの芽生え</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; color: green;">年長児の後半</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにもちながら、楽しく表現する。 ・身の回りの出来事や自然事象に触れ、変化に気付いて感動したり、喜んだりする。 ・絵本、詩、物語などを聞いて、表現したり、言葉の面白さや美しさに気付いたりする。 ・音色の美しさを感じながら、歌ったり、楽器の演奏を楽しんだりする。リズムやテンポなど、音楽の特徴を感じながら、のびのびと身体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ・生活や遊びを通して感じたことや考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったり、演じて遊んだりする。 ・友達同士で表現し合うことで、様々な感じ方や表現の面白さに気付いたり、友達と一緒に表現する過程を楽しんだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者も感性豊かに心を動かし、表現してみせる。また子どもとともに感じたり表現したりすることを楽しんでいく。 ・素材や教材を適材適所で生かせるように、教材研究をする。 ・一人一人の感じ方や表現の違いを尊重する。自分と違っていても、けなしたり、笑ったりしないことや違いに気付き受け入れることを大切にすする。 ・お話を演じたり、自分たちで劇に創り上げたりする経験では、子どもの表現を一緒に楽しみ、表現の楽しさややり遂げた満足感を共有できるようにする。
<p style="writing-mode: vertical-rl; color: green;">自覚的な学びへ</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; color: green;">一年生入学当初</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの出来事や自然事象の変化などに気付き、心が動いたことを、音楽や造形、身体等によって生き生きと表現する。 ・学校探検で行った場所や会った人のことを絵カードやクイズ、ジェスチャー、実際に行き見せながら紹介するなど思い思いの方法で友達に知らせる。 ・友達と一緒に絵本や紙芝居などを聞いたり、読んでいたりしてイメージしたことを、言葉や動作で自分なりに表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒にリズムに合わせて体を動かす楽しさや、声をあわせて歌うことの心地よさを十分に味わえるようにする。 ・子どもの作品を教室の装飾に生かしたり、掲示したりして生活が豊かになることが感じられるようにする。 ・音楽や図工などの表現活動を行う際には、児童の生活や体験をきっかけにした表現活動を取り入れるなど、児童の意識の流れを大切にすする。

幼稚園等でなじみのある遊びや歌を歌ったり、絵本を読んだりしながら、児童の緊張をほぐす。

一年生の担任以外にも他の教職員や上級生等、様々な人が関わってくられることを知らせ、安心感をもたせる。

入学式での返事や態度等をほめ、明日からの学校生活への自信につなげる。

スタートカリキュラムの趣旨や学校の取組について保護者に知らせ、保護者の安心につなげる。

生活科を中心とした総合的・関連的な指導

- ★カリキュラム作成時の配慮事項
- ★幼児期の終わりまでに育てほしい姿を發揮できる環境構成や指導の工夫
遊び中心の生活リズムから固定時間制に基づく生活へと徐々に移行していく。
- ★児童と相談しながら進める適応指導・学習規律の指導の工夫
机上に出すもの、机にしまうもの、ロッカーに入れるもの、話の聞き方の約束等、児童と相談しながら進めていく。
- ★教科の芽生えを引き出す生活科の活動等の工夫
数への関心・感覚の活動を生活科や算数で行い、計算へと徐々に導入する。
- ★一人一人に応じた指導の工夫
活動の順序やロッカーの使い方など可視化し、見通しをもって、安心して学習できる環境をつくる。
- ★週案、月案等の作成により段階的な指導の工夫
単元名・題材名だけでなく、配慮事項や共通理解事項を記入する。

- ☆例 生活科「がっこうたんけん」
- *国語 学校探検で見つけたことを「話す」「書く」活動に活かしたり、名刺を書く必要性から文字指導につなげたりする。
- *算数 学校探検で見つけた人やものや数を数字で表したり、人数を分けたりする活動を「かず」「かたち」「なんばんめ」等の学習につなげたりする。
- *音楽 学校探検で見つけた音楽室の楽器を使って、リズム遊びを楽しんだり、上級生の歌声への憧れから校歌の練習につなげたりする。
- *図工 学校探検で見つけた人やもの等を絵に描いたり、作ったりする活動につなげたりする。
- *体育 校庭で遊んだ経験から「体ごしの運動」や遊具を使った運動に挑戦する活動につなげる。
- *道徳 学校探検の経験から「廊下を静かに歩くこと」「時間を守ること」等のきまりを守ること大切さを話し合うことにつなげる。
- *特活 学校探検で訪ねた保健室で健康診断があることを知り、健康について関心を高めたり、通った経路を確認し避難訓練につなげたりする。

【始業前や休み時間】教室の環境

- 上級生に絵本の読み聞かせをしてもらい、楽しく一日のスタートが切れるようにする。
- 休み時間や昼休み等は、児童の興味・関心が高い遊び道具や材料が使えるように教室環境を整える。(絵本、紙芝居、折り紙、かるた、パズル等の幼稚園等で親しんだものを用意する。)

【朝の会・朝の時間】

- 幼稚園等で習った歌を歌ったり手遊びをしたりして、安心して楽しめるようにする。
- 健康観察では、子どもたち同士でも名前を呼び合う工夫をし、顔と名前が覚えられるようにする。

【下校時】

- 1年生で地区ごと(下校方向)の班を編成し、担任や他の職員で引率し、下校指導を行う。その際、地域の見守り隊の方にも引率の協力をお願いする。
- 保護者には、下校時刻等を伝え協力をお願いする。
- 引率以外の見守り隊の方にも、下校時刻等を知らせ、自分の地区で下校の様子を見ていただく。

【当番・係】

- 係活動は、児童の様子を見ながら。必要感に基づき形で始める。
- 係の種類ややり方については、幼稚園等での経験を話し合いに取り組めるようにする。

【給食・清掃】

- 幼稚園等で給食を体験している児童が増えていることから、給食開始の時期や当番について、考慮する。
- 給食の配膳や清掃の方法について、幼稚園等の経験を生かし、戸惑わずに取り組めるようにする。

【保護者への毎日の連絡やお祝い】

- 入学当初は、お知らせプリントで、翌日の予定やもちものギヤらせ、不安をなくすようにする。
- 学年便りや学級便り、時間割等では、学習予定や配慮事項等子どもの様子(写真やコメント等)を載せたりし、保護者に合うようにする。

生活面の配慮

家庭・地域との連携

幼稚園との

【授業見学・情報交換】

- 幼稚園等の先生方に、授業見学してもらい、入学後の児童の様子について情報交換する。

【要録の活用】

- 届いた要録を熟読し、児童理解に努める。特に気になる児童については、入学前の情報

【相互理解】

- 幼稚園等に学校便り等を定期的な発行の様子や情報交換を促す。

スタートカリキュラム（週案）例

浜田市教育委員会

めあて	安心して登校し、学校での生活の仕方やきまりを知り、意欲的に学校生活をスタートする。				
日	8日（月）	9日（火）	10日（水）	11日（木）	12日（金）
行事等		入学式	校外班会 給食開始	集団下校	身体測定
朝の活動		学活 ・事前指導 返事の仕方 座り方 等	<ul style="list-style-type: none"> 登校後の流れ 自分の席に座る 鞆をしまう 自由帳 あいさつ 健康観察 先生の話 手遊び歌 (登校後の流れを一定にし、自分でできるようにする) (園で知っている歌や遊びを取り入れる)	<ul style="list-style-type: none"> 週のみあて（願う姿）を明記する。 ねらいに合わせた留意点や配慮事項を各時間や備考欄や欄外に記入する。 当初は同じような流れで時間割を組むなど見通しがもてるようにする。 一日の流れを掲示する。 15分や30分などモジュールで時間割が組めるように工夫する。 生活科を中心に、合科的・関連的な指導を行う。 具体的な操作活動などを伴う学習活動を行う。 給食でのアレルギー対応の児童（除去食、おかわり）を確認しておく。 園で親しんできた遊びや活動を取り入れる。 読み聞かせをフリースペースするなど園でなじんだ形態での活動を取り入れる。 園で使ったことがある遊び道具を用意しておく。 園での生活の違い（和式トイレと洋式トイレ、ペーパータオルとハンカチ等）を把握して指導する。 学校での生活と園での生活との共通性に気づかせ、安心して生活ができるようにする。 同じ園からの入学が少ない場合、孤立しないように配慮する。 前面の掲示物等をシンプルにし、集中できる環境を整える。 帰りの会では1日を振り返るとともに、明日への期待をもたせるようにする。 リボン等を活用し、帰る方向や放課後児童クラブに行く児童が分かりやすいようにしておく。 	
1校時		入学式 (詳細は別紙)	学活 (0.5) 「仲間づくりゲーム」 (他園からの児童と仲良くできるようにする)		
2校時		学活 ・諸連絡 ・配付物 ・トイレの使い方 ・集団登校 ・明日の持ち物	生活・学活 (0.5) 「あいさつ」 (担任が見本となるような声で行う)		
休憩時間			国語 (0.5) 「発表の仕方」 (話し方、聞き方等の学習のきまりを確認する)		
3校時			生活・学活 (0.5) 「発表の仕方」 (話し方、聞き方等の学習のきまりを確認する)		
4校時			生活・学活 (0.5) 「発表の仕方」 (話し方、聞き方等の学習のきまりを確認する)		
給食			生活・学活 (0.5) 「おいしい給食」 (園での給食の仕方を引き継ぐ)		
昼休憩			準備と片づけ 当番活動 手洗い 時間の確保		
掃除			遊び場所確認		
5校時			校外班会 (1) 班長の迎え		
帰りの会			今日の振り返り 明日の用意		
下校		11:30 保護者と下校	15:30 集団下校 職員引率		

保幼小交流活動【例】

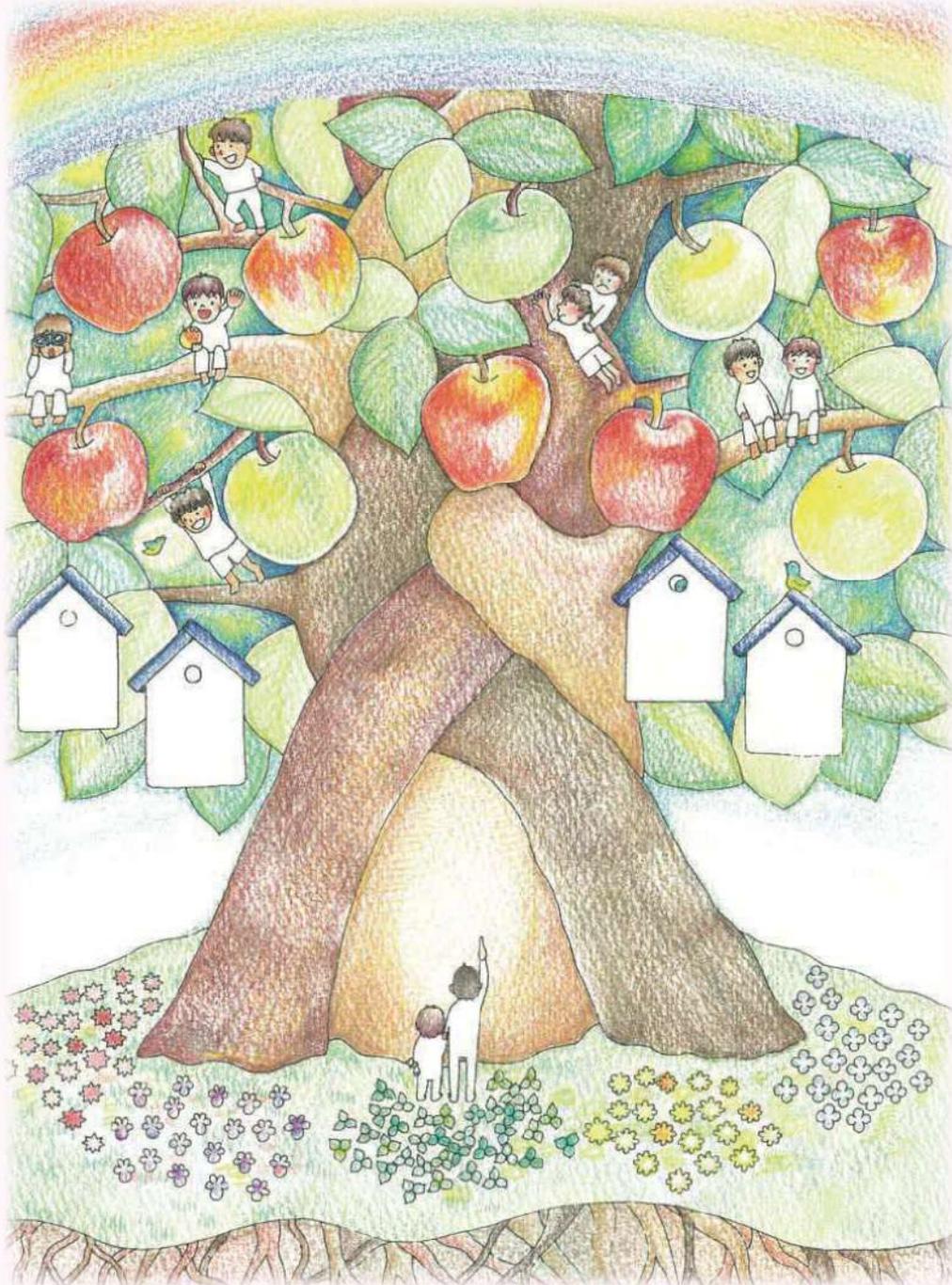
浜田市教育委員会

月	4～8	9～12	1～3
子どもをつなぐ	<p>小体育会見学・参加 園外散歩（校庭・体育館・図書室・トイレ借用） 合同プール掃除 身体測定実施</p>	<p>夏休み作品展見学 合同避難訓練 生活「秋祭りへようこそ」 校内体操発表会見学 合同芸術鑑賞会 夏季休業中の校舎利用（音楽室、図工室等） 集会活動への参加</p>	<p>生活「昔遊びをしよう」 国語「読み聞かせ訪問」 体育「縄跳び交流」 給食試食会 創作ダンス校内発表会見学 校内ロードレース大会応援・参加</p>
教職員をつなぐ	<p>保幼担任1年授業見学 情報交換連絡会 管理職会 保幼年長担任小学校一日体験 小学校コーディネーター等配慮児訪問 小学校教員保幼一日体験 合同研修会開催</p>	<p>就学時健診 吟味検査フォロー訪問 公開保育・公開授業案内</p>	<p>年長児一日体験入学 1年生との交流活動 引継ぎ連絡会</p>
教育をつなぐ	<p>スタートカリキュラム 学校だより送付（毎月） 園だより送付（毎月） 1年だより送付 年長だより送付 要録を参考にした個別の指導計画作成</p>	<p>「あきまつり」合同開催 ふれあい給食 ミニ保健指導（歯、目、耳等）</p>	<p>アプローチカリキュラム 要録送付</p>
その他	<p>入園式・入学式列席 年長児保護者学校見学</p>	<p>運動会、発表会列席 PTA講演会案内</p>	<p>卒園式・卒業式列席</p>

島根県幼児教育振興プログラム

【計画期間 令和2年度～令和6年度】

いきいきと周りの「ひと・もの・こと」と関わりながら
遊び育つ子ども



島根県幼児教育センター

(島根県健康福祉部 島根県教育委員会)

島根県では、幼児期にどんな子どもを育てるの？

幼児教育の質の向上を「オール島根」で図るため、めざす子ども像を作成しました。

めざす子ども像



いきいきと 周りの「ひと・もの・こと」と関わりながら
遊び育つ子ども

めざす子ども像で掲げる3つの姿が子どもに見られた際には、3つの資質・能力が養われています。

3つの姿 と 3つの資質・能力

いきいきと活動する姿

自分で考えたり挑戦したりしながら、心と体を動かし、その心地よさや楽しさを感じ、心身ともに健康な生活を自らつくり出す姿

心と体を働かせる資質・能力

- ・ 基本的な生活習慣 ・ 多様な動きや表現活動のための基礎的な技能
- ・ 運動や表現するための試行錯誤や工夫
- ・ 大まかな時間の意識や状況の予測
- ・ 美しさなどへの感覚
- ・ 自ら健康で安全な生活をつくり出そうとする姿勢



紙玉がうまくあたるかな



ねえ見て、ぼくの発見

周りの「ひと・もの・こと」と関わる姿

友達と互いに認め合い意見を言い合いながら、より広い環境に関わり、きまりをつくったり我慢したりしてより楽しく遊ぼうとする姿

自他を大切にし協働する 資質・能力

- ・ 友達とともに活動する良さ ・ 道徳性・規範の気付き
- ・ 日常生活の言葉の理解
- ・ 友達と楽しく活動するための試行錯誤や工夫
- ・ 言葉による表現や伝え合い
- ・ 感情をコントロールして自分で考え、友達を思いやり目的を達成する姿勢

遊び育つ姿

様々な気付きや試行錯誤をしながら夢中で遊び、自分の遊びについて振り返ったり友達の遊びを知ったりして、さらに新しい遊びを考える姿

自ら気付き考える 資質・能力

- ・ 規則性や法則性の発見 ・ 生命の尊さへの気付き
- ・ 予想、比較、分類、試行錯誤、工夫
- ・ 振り返りや次への見通し
- ・ 好奇心、探求心
- ・ 自然や社会への関心 ・ 数量、形への感覚



ころころ転がるって面白い

めざす子ども像実現のためにはどんなことが必要なの？

めざす子ども像を実現するためには、子どもの自発的な生活や遊びが必要です。そのためには、失敗しても粘り強く取り組んだり、挑戦したりできるような環境が必要です。また、保育者が発達のプロセスを知り、それに即した活動ができる環境に出会わせることも必要となります。

そのことを踏まえ、次に掲げるような視点を大切にしていくことが重要です。



保護者や保育者の情緒的な関わり

子どもが生活の場を広げたり、挑戦したり、粘り強く取り組んだりすることができるために、親しい大人による愛情に満ちた受容的、応答的な関わりが必要です。



子どもの発達の姿を把握すること

一人一人の子どもの発達に即した教育を行うために、子どもの発達を長期的な視野を持って育てることができるよう0歳からの発達の姿を把握する必要があります。



遊びが循環すること

子どもが試行錯誤を繰り返し、達成感を味わうように遊ぶためには、環境と出会う場面、遊びに熱中する場面、振り返る場면을保育者が構成する必要があります。



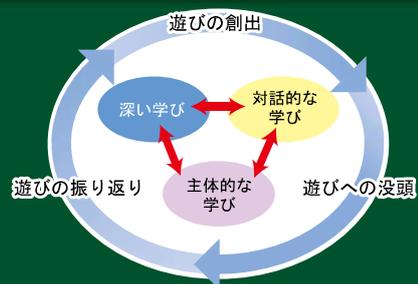
子どもを中心とした「ひと・もの・こと」との関わり

子どもが「ひと・もの・こと」と関わり、自発性や協調性、創造性を育むためには、子どもの興味・関心に適した環境に出会わせる必要があります。



遊びの循環

「遊びの循環」は、遊びの創出、遊びへの没頭、遊びの振り返りの3つの遊びのプロセスが循環している状態をさします。この循環によって、遊びの中での無意識な学びが、子どもの自覚した学びへと移行します。



幼児教育の質の向上のためにそれぞれが何をすればいいの？

幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培っていく重要な役割を担っています。そのためには、様々な「ひと・もの・こと」と直接ふれあう必要があり、幼児教育の関係者ばかりではなく、より多くの協力者が必要です。



県民・地域

島根県民全員で、 島根の幼児を育てましょう

- 幼児教育の重要性や幼児期に求められる教育についての理解促進
- 地域資源を活用した教育・保育活動の理解
- 幼児教育への参加



保護者

幼児教育施設などと連携して子どもの 心身の調和のとれた発達を図りましょう

- 子どもの教育の第一義的な責任
- 愛着形成を基盤とした子どもの基本的な生活習慣の定着や自立心を育成
- 幼児教育施設や保護者同士での連携と教育・保育活動への参加



幼児教育 施設

よりよい教育のため 研修等に参加し質の向上を図りましょう

- カリキュラム・マネジメントの実施
- 幼児教育施設内外の研修の計画的な実施
- 保護者などへの情報提供や家庭教育支援
- 幼小連携・接続の積極的な取組



幼児教育施設や小学校の研修を支援しましょう

市町村と県は、それぞれの強みを活かし、幼児教育の質の向上のための支援を、相互に連携して行います。

市町村

- 市町村内の幼児教育の質の向上に係る体制の構築、研修の開催
- 市町村内の幼児教育施設などへの直接的な指導・助言
- 市町村内の小学校への円滑な接続が図れる体制の構築

県

- 県全体の幼児教育の質の向上への機運の醸成
- 県全体の幼児教育施設の教育の質の向上を図る支援体制の強化
- 県全体の実態把握・調査・研究とそれを活用した効果的な研修の実施

